

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

長野都市経営研究所

Vol.5

1999.NOV

発行日/1999年11月15日(年4回)

E-mail: nupri@nupri.or.jp

発行/長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178 長野バスターミナル会館3F TEL 026-223-7900 FAX 026-223-6166 http://www.nupri.or.jp

長野都市経営研究所

活性化した魅力あるまちづくりは、 ハード、ソフトの一体的活用が重要。

演題「中心市街地活性化基本計画

(長野地区) について

長野市商工部次長

吉野文夫氏

長野市商工部主査

中澤和彦氏

去る10月21日(木)、第9回NUPRI全体懇談会において、長野市商工部次長 吉野氏、商工部主査 中澤氏をお招きし、長野市中心市街地活性化基本計画(長野地区)についてご説明をいただいた内容をまとめました。

長野市商工部次長 吉野文夫氏

最近の中心市街地は、大型店の郊外転出、商店街の衰退等、中心市街地の停滞、空洞化が全国各地で問題になっております。都市の中心部を活力あるまちにしたいということで、「中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律」略して、「中心市街地活性化法」が昨年の7月から施行され、同月、国の基本方針が指定されました。中心市街地を活性化するためには、各都市が中心市街地活性化の基本計画を作成する必要があります。長野市におきましても昨年の12月から庁内の16部局、32課からなる中心市街地連絡会議を設け、10年度には基礎調査分析調査を行い、11年度から基本計画の策定を行ってまいりました。

今年の2月、地域住民、商業団体の代表、学識経験者、市会議員等で構成される長野市中心市街地活性化策定委員会を設置し、長野地区の基本計画を策定いたしました。

本日は、10月4日、国に提出いたしました「中心市街地の活性化基本計画、長野地区版」のご説明をし、皆様のご協力をお願いしたいと思っております。



長野市商工部主査 中澤和彦氏

「中心市街地活性化法」とは、中心市街地を活性化していくためには、市街地の整備改善だけでなく、地元の商店会、商業者の方にもご協力いただき、ハード、ソフトを一体的に活用することによって中心市街地を活性化させようという趣旨でございます。

基本計画書を作るに当たり、基本計画策定委員会を設置し、検討してまいりました。また、今年の3月には市民と地元商業者約1500名を対象としたまちづくりアンケート調査を実施。更に、地元の商店会、商業者の皆様に活性化のためのアイデア、発想、ご提案ご要望をお聞きするため、今年の5月にはワークショップを開設し、まちづくりに対する意見の調査、交換等を行いました。

こうした経過を受け、中心市街地の区域、基本的な方針と目標を定め、展開される事業や事業実現のための推進対策を策定いたしました。

本来、中心市街地というのは、市町村の文化、経済の中心にあり、古くから業務や商業機能が集積し、独自の文化や伝統等が育まれていた場所であるということです。更には、生活や娯楽や交流の場になっているというところで、そのまちの個性、勢いを代表、象徴している場であると言えます。そうすると、通常市町村に複数の中心市街地が存在するということは考えられないのですが、長野市は、昭和41年の合併により長野、篠

ノ井、松代の3地区が中心市街地として上げられます。この3地区の良さや資産を生かして、どういうまちづくりをしたら良いか、委員会や市民の方からのアンケートをまとめた結果、4つの方針が出てまいりました。

長野市中心市街地活性化の基本的な方針

1. 国際観光・コンベンション都市の推進

オリンピックやパラリンピックの開催により得た、多くの有形無形の資産を活かし、個性的な国際観光・コンベンション都市づくりを推進します。

2. 歴史的・文化的資産の活用

数多くの歴史的、文化的資産の活用と新たな資産の発掘を図り、長野市を訪れた人が再度訪れたくなるような魅力あるまちづくりを推進します。

3. 環境との調和

市街地の緑化を図りながら、自然環境や水辺環境と調和したまちづくりを推進します。

4. 住民参加のまちづくりの推進

地域住民、商業者、行政、専門家などをネットワークで結び、公民協働によるまちづくりを推進します。

この4つの基本的な方針に基づき、中心市街地の活性化を図ってまいります。

今回、長野地区のエリアは、商業地域と近隣商業地域を含む210haを指定しました。このエリアについては事業の侵食状況により、見直し、変更等は出来ることになっております。

中心市街地活性化の目標と主な事業

善光寺から発展した門前町長野市の中心的な役割を果たしてきた中央通り(以下表参道と呼ぶ)は、観光拠点である善光寺周辺界隈、娯楽街である権堂町界隈そして広域交流界隈である長野駅を貫く軸となり、今後重要な役割を果たす通りとなります。この特性を活かすためにもトランジットモール(歩行者優先道路を実現し、住む人にとっては誇りと愛着が感じられ、訪れる人にとっては、快適で歩いて楽しい通りになるよう整備し、ぬくもりとふれあいのあるまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

また、中心市街地小学校の統廃合による跡地やセンทรัล・スクウェアについては、関係者の皆様と力を合わせ、多くの人々をひきつける中心市街地の拠点となるように活用してまいりたいと考えております。

以上を全体目標とし、更に5つの具体的な目標を定め、中心市街地の活性化を推進してまいりたいと思っております。

研究部会中間活動報告

NUPRIの研究部会が10部会となり新たなスタートを切ってから早一年。それぞれの部会が持つ重要なテーマに対し、活発な調査、研究活動が行われてまいりました。

新しい年度を迎え、ますます熱心に研究する部会活動の取り組みを、今回中間報告として発表していただきました。各部会の内容を理解することにも今後のより発展した活動が期待されます。



第1研究部会



部会長 北村正博氏

8月18日、長野市のソフト産業協議会と第1部会等40数名の方が集まり、フルネットセンターの見学会、説明会を行いました。

今後は、ギガビットネットワークについての研究を進め、長野市にあるべき通信情報の活用をどうしていくべきか、小学校、中学校へのネットワーク展開についても研究を進めてまいりたいと思います。

また、NUPRIのネットワーク、ニューネットを活用してNUPRIの様々な情報、会議等のご案内を差し上げております。その後アドレスと取られた方は、ぜひ事務局までご報告をお願いいたします。

第2研究部会



副部会長 土屋修三氏

本年度の事業計画では、建設省の地方生活圏のモデル地域に名乗りを上げる準備活動をする、千曲川水系及び水質及び景観の保護について、流域市町村等の協力体制の確立と可能性について模索していくことが大きな目標でございます。

今年度に入り、第5回の研究部会

を行ってまいりました。長野県新地域総合計画等を受けて、長寿県社会福祉の充実等、長野の特性を活かしたまちづくりの可能性についてやニュー善光寺運動を裏付けた試み等のお話をお聞きしました。

また、建設省が押し進めている北陸地域づくりで、新しい地方生活圏の計画検討委員会が既に出来上がっております。第2部会の研究テーマとクロスされたところがありますので、11月11日、建設省の北陸地方建設局の企画調査官をお招きして、長野市を中心とする関連所としての連携の地域づくり、千曲川、犀川、信濃川の流域市町村との連携、長野道開通にともなう北陸圏との連携の3つをテーマに第6回の部会の開催を予定しております。

第3研究部会

報告者 幹事 若林健太氏

9月上旬に長野市振興公社、長野コンベンションビュローと研究会を持ち、現在オリンピックの後施設を中心として様々なコンベンションの誘致がされ、実績を上げているというお話をうかがいました。これを受けまして11月にシンポジウムを開催すべく、現在鋭利、努力をさせていただきます。いただいているところでございます。

第4研究部会



部会長 岩野彰氏

第4部会は信大の石澤助教をアドバイザーにお迎えし、交通問題を検討しています。現在長野市がどのような都市計画を検討しているか、講師にお招きして勉強会を企画していましたが、全体懇談会でのお話が聞けるということですので、本日のお話をお聞きし、その中から第4部会としての考え方を構築してまいりたいと思っております。

第5研究部会



部会長 滝澤芳一氏

長野市中心市街地活性化基本計画が策定され、本日も講演をいただくことになっておりますが、その基本計画策定を視野に入れ、調査、研究をしてまいりました。

各メンバーに様々な意見を出していただき、その後レポートにまとめていただきました。

更に、長野のまちづくりについて多くの方の意見をお聞きするために3名～5名のグループインタビューを行いました。今回は、他府県から転入してきた方、一度転出した後、再度転入した方等の奥様のグループでした。インタビューを通して観光都市長野としての位置付けをもう一度再確認し、有効な市街地の改善をすべきではないかと再認識をいたしました。

今後は、このインタビューの回数を増やし、諸々の意見を取りまとめ、メンバーのレポートと合わせて発表をさせていただこうと思っております。

第6研究部会



部会長 柳澤一夫 氏

小学校統廃合の問題は、合理性と感情論、教育論と経済効果などが交錯する微妙で複雑な研究テーマです。関係の先生方のお話、勉強会、ヒヤリング等を通して検討した結果、後町小、鍋屋田小、山王小の3校をどこに集約するかということについては、時間、通学距離、交通量、信号の数、環境等それをとっても決定的なものはなく、むしろそれならばどこでもいいではないかという「結論なき結論」に至りました。

付記 理事長

この第6部会の結論をNUPRIの結論とするところに若干の異論がないわけではありません。ぜひ皆様方にご意見をいただき、それを総合して理事会、部会長会議等で十分審議をした後に、NUPRIとしての意見を取りまとめたいて考えております。

第7研究部会

報告者 事務局長 山口信行 氏

長野北新都市開発整備事業は、長野市の方針が確定しないこともあり、部会の研究活動は進展しておりません。



第8研究部会



部会長 竹内伊吉 氏

5月19日、資産の証券化というところでキャッシュフロー経営のための勉強会を行い、「これで貸し渋りはこわくない」という題名の講演をうかがいました。

6月14日、新しいアミューズメントの創出による長野活性化アイデア、「もっと長野がおもしろくなる」という題名の講演をうかがいました。

8月4日、長野県の農業問題について、JA長野経済連に農業をめぐる最近の状況をお聞きしました。

11月8日には、松下電工の前労働組合委員長に、大手の企業では、高齢社会に向けて高齢者の再就職をどのように捉え、取り組んでいるのかというお話をうかがう勉強会を予定しています。

今後は、多くの勉強会を通して得たことの中間的なまとめをし、ご報告いたします。

第9研究部会



副部会長 山口信英 氏

中核市に関する調査研究ということで、長野市の中核推進室長のお話

既に中核市に移行してる宇都宮市の現状、県の地方課長のお話等をうかがい検討してまいりました。その中で、今後はますます地方分権が進み、ごみ処理や介護保険に代表される福祉関係の問題を広域的に考えていく必要があるということで、中核市と合わせて広域連合についても調査研究を始めています。上田の広域連合の現状をお聞きしたり、8月の末には長野市の市川助役から広域連合設置の必要性や組織運営に関するお話をうかがいました。

今後は、この4月に実施された中核市のこれから、来年4月に予定されている長野広域連合の実施に対して、市民の立場、或いは商店企業からの立場、色々な切り口から調査研究を進めて提言をしていく予定です。ごさいます。

第10研究部会



部会長 山本方俊 氏

この冬、エムウエーブのスケートの利用客が大変少なかったということとを憂慮しまして、アイススポーツに関する調査から始めようと、スピードスケート、フィギュアスケート、アイスホッケー、ボブスレー、リュージュ、スケルトン等の各連盟の関係者から現在の状況、規模等のヒヤリングを行いました。長野市内にあるカーリングの連盟で一通り終了となりますので、12月には理事会等でご報告したいと思っています。最終的には、全ての内容をまとめ

て長野市アイススポーツ白書というような形で来年3月には発行したいと考えております。

セントラル・スクウェア特別委員会

報告者 理事長 鷲澤正一 氏

セントラル・スクウェアをオリンピックメモリアルスポットにしようと、聖火台の設置を検討してまいり、現在順調に進んでいます。聖火台設置の実行委員会も設立し、12月31日には、2000年への掛け橋という意味を含め、カウントダウン方式での点灯式も計画が練られています。聖火台が設置されることで、セントラル・スクウェアが市民の憩いの場となり、中央通りの活性化につながっていくのではないかと期待しております。

また、駐車場の収入も上がってきており、経営も大変順調に運営されているということをご報告申し上げます。

エムウエーブ特別委員会



委員長 青木恵太郎 氏

9月末で第2期目が終わり、1年4ヵ月が経過したわけですが、大変残念ながら赤字の状態でございます。1年間フルにエムウエーブを運営して感じたことは、長野にスケート地盤がないということです。これからは、いかに小さい子供たちにスケートの楽しさを教え、底辺

人口を増やすことが必要だろうと思います。

第3期は、スケート人口の増大、営業活動の強化をし、黒字経営を目標といたします。

PFI特別委員会



委員長 若林健太 氏

PFI特別委員会は今年度に入ってから新しく設置された委員会でございます。

7月の全体懇談会では、プライスウォーターハウストンとコンサルタントの方をお招きしてPFIについてのご講演をいただきました。その後、9月30日、10月1日に東京で日本開発銀行とプライスウォーターハウストン共催のPFIセミナーに参加いたしました。7月にPFI基本法が成立いたしましたので、国全体で民間資金を利用した公共事業というものについて検討し、認定事業を探している、国も大きくそれに関わり始めているということを感じました。

今後は長野県、長野市の該当部署の方々と接触を持ちながら共同で研究会を立ち上げて取り組んでいきたいと思っています。

また、青年会議所でセントラル・スクウェアの後利用について、PFI事業を一部導入し、今後の展開を考えたらどうかという提案もされています。こちらについてもPFI特別委員会として検討していきたいと思っております。

①「善光寺表参道遊歩モールの確立」

表参道（中央通り）は、四季の移り変わりが感じられる花や樹木、休憩施設を設置し、歩行者優先道路として整備します。また、表参道に連結した小路、横丁は、善光寺のもつ物語性を活かし、回遊性のある空間として整備し、歩いて楽しみたいまちづくりを推進します。

具体的事業は、中央通りトランジットモール化事業、善光寺表参道ストリートフアニチャー整備事業等があり、更に観光案内板、野外彫刻、表参道にふさわしい灯笼の設置等も検討しています。

②「うるおいのある都市空間の形成」

本格的な高齢社会を迎えるにあたり、建物や構造物のバリアフリー化をより一層進め、安全、快適、景観に優れた街並みを形成します。

具体的事業は、東口で進んでいる第二土地区画整理事業、市街地再開発事業、大門商店街ファサード事業等があります。

③「滞留時間の長い魅力ある商業機能の充実」

店先空間や街路空間の景観形成や魅力ある店舗づくりを展開し、商業、娯楽、飲食機能はもとより、福祉、学習、情報等複合的な機能を充実していきます。

現在、12ある街角ミニ博物館を、今後もっと増やしていきたいと考えています。7月末に発足したおかみさんの会も、今後の事業の充実を計っていただきたいと思っています。更に、商店街情報システムの開発は事業化に向けて進んでいます。

④「快適な都市型居住環境の整備と」ミニユニティの再生」

土地の有効利用や建物の不燃化等、安全で快適な居住環境を整備するとともに、都市型住宅や公共公益施設の整備により、生活・文化機能を強化、再生します。

優良建築物の整備とともに、生涯学習センターや市民ギャラリー、国際交流センター等の整備をしていきたいと思っています。

⑤「安全で快適な交通環境創出」

公共交通機関を柱とした交通体系の整備、充実を図り、中心市街地へのアクセスを改善し、安全でかつ快適な交通環境を創出します。

都市計画補助幹線道路の計画の推進、来年度から始まる循環バス運行事業、善光寺門前駐車場の整備などが計画されています。

以上の目標を実現するために、事業中のものから平成18年度以降事業着手予定のものまで、今回63の事業を盛り込みました。市がやるべき事業、民間の皆様によったいただく事業と役割を認識して事業の推進に当たりたいと思っています。

今話題のTMOタウンマネージメント機関ですが、想定している事業としては、商店街のファサード整備事業、空店舗の活用事業、駐車券共通化事業があります。長野市はまだ母体が確定していませんので、今後、県の支援を受けながら、長野商工会議所の方、地元の商店街の皆様と勉強会を重ね検討していきたいと考えています。



中心市街地のゾーン区分と目標

区域が210haと非常に広く、長野駅から善光寺までの表参道が約1.8kmと長い。ためA、Dの4つのゾーンに区分してそれぞれの目標を定めています。

A 善光寺門前町界隈ゾーン

善光寺の歴史と伝統にふさわしい落ち着いた風格のある景観形成を図るとともに門前町商店街として一味違う個性的専門店づくりを推進します。

B オリンピックメモリアル・にぎわいアミューズメントゾーン

様々な機能が複合した市街地整備並びに集客・観光の拠点づくり、食の名店街づくり、娯楽施設の充実を図ります。

C 長野駅善光寺口顔づくり交流ゾーン

広域観光の玄関口として、話題性を持った商業空間を創出し、エンターテインメント機能を有する魅力街を目指します。

D 長野駅東口都市機能ゾーン

広域交通の結節点として長野の新しい顔となると商業、業務、生活、文化機能の整備をします。更に新型都市産業として、複合的な機能を有する街並みの整備をします。

事業員現化のための推進体制

市の推進体制として、中心市街地活性化の専任組織となる「まちづくり推進室」を設置したいと思っています。

更に、行政、地域住民、民間事業者が一致協力してまちづくりを行えるような体制づくりの整備をしていきたいと思っています。そのために「市民まちづくり会議」の開催や市民起業家の発掘及び育成につとめてまいります。

この中心市街地活性化基本計画につきましては、情勢の変化による修正、変更がございいます。そういう意味では未完成というふうに考えております。NUPRIの皆様には、中心市街地活性化について発想、あるいは事業等がございましたら、ぜひ市の方に情報をお寄せいただき、今後もご協力をお願い致します。

※より詳しい内容につきましては「長野市中心市街地活性化基本計画（長野地区）概要版（市商工部）をご覧ください。」

編集後記

NUPRI NEWS第5号は、第9回NUPRI全体懇談会における各部会の活動報告、セントラル・スクウェア聖火台設置実行委員会設立報告、「中心市街地活性化基本計画について」の講演会等、大変内容の豊富な紙面となりました。

NUPRI NEWSの情報をより多くの皆様と共有することによって、様々な活動にお役立て頂けるような紙面にしていきたいと考えております。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

（広報委員会一同）

セントラル・スクウェア聖火台設置実行委員会設立



去る10月18日（月）長野商工会議所において、セントラル・スクウェア聖火台設置実行委員会設立総会が開催されました。

オリンピック期間中、各地競技場でオリンピックの場所におさまっています。開閉会場の大聖火台は南運動公園広場に置かれ、観光スポットとなっていますが、期間中15万人強の観客が集まったセントラル・スクウェアにはオリンピックモニュメントがありません。長野市の市街地の中心地に唯一残されたオリンピックの遺産、セントラル・スクウェアに市民の手でシンボルモニュメントを設置し、オリンピックの成功とあの熱気を伝えるとともに、期間中の熱気を市街地中心地に取り戻し、中央通りの活性化に役立てたいと考え、セントラル・スクウェア聖火台設置実行委員会が設立されました。

聖火台の設置にともない、2000年のカウントダウンイベントとして、大門上からセントラル・スクウェアまでの約500mを1000人の市民参加により、善光寺の常燈明を聖火とする2000年カウントダウン聖火リレーを計画しています。

参加していただいた方には聖火リレーをモチーフにしたピンバッジと聖火リレー時にかぶる真っ白なスキー帽のプレゼント、更に、おとし玉大抽選会を予定しています。イベント内容はA、B、C、Dで放送予定です。

2000年のスタートにふさわしい感動のイベントとなり、セントラル・スク

